平成22年度
「体験型海外教育実地研究」
参加者による開発教材集

平成 23 年 2 月

広島大学大学院教育学研究科
広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト研究センター

目　　次

1．第２学年　異文化理解　Wish on a ORIZURU
教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修　内田　武瑠 …… 1

2．第３学年　図画工作科　Ukiyoe which connects the world
教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修　山中　法子 …… 7

3．第４学年　異文化理解　Let's enjoy Mihara Daruma!
教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修　大下眞理子 …… 13

4．第４学年　異文化交流　Let's Play "Hanetsuki"!!
教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修　藤本　翔子 …… 20

5．第５学年　異文化理解　Let's enjoy "MAKURANO-SOSI"
教育学研究科学習科学専攻学習開発基礎専修　澤口　陽彦 …… 26

6．第５学年　国語科　Let's Enjoy Old Japanese Tales!!
教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修　梅田　裕基 …… 32

7．第５学年　異文化理解　A Stamp as a small cultural ambassador which connects you and me.
教育学研究科学習科学専攻カリキュラム開発専修　清水　典子 …… 38

8．第８学年　社会科　Make the Crossword Puzzle
教育学研究科科学文化教育学専攻社会認識教育学専修　庄本　恵子 …… 44

※教科等名は、参加者（授業者）側から付したものであり、授業を実施した当該校にとっては教育課程外の投げ入れ授業として位置づけられるものである（一部を除く）。

1　第２学年　異文化理解　Wish on a ORIZURU

教育学研究科　学習科学専攻　カリキュラム開発専修　　内田　武瑠

1　はじめに

国際化が進む日本で，異文化について知り，異文化と触れあうこと，そしてそれらを通して，自国の文化を深く知ることが重要になっている。そのような状況の中で，子どもたちに異文化について学習させ，自国の文化を再認識させることが求められている。そして，子どもたちの異文化理解を促進するには，教師の異文化交流の体験の有無が大きく関わってくるだろう。

このような思いから，私自身が異文化に触れ，自国の文化を再認識するような体験や，アメリカの子どもたちに授業をするという希少な体験を行える本研修は非常に素晴らしいものであると考えた。そして，これらの体験を通して，これからの外国語活動や国際理解教育のあり方，そして日本の教育のあり方について，なんらかの示唆を得たいと思い，この研修に参加した。

2　実地研究の日程と概要

月日	Transportation	Activities	Lodging
4/22(木)	渡航までの日程確認　パスポート確認　ESTA・保険の確認 5/13、23 の紹介と確認　授業研究テーマの設定方法		
5/13(木)	Culture and Pedagogy: Bushido、Sado、Kado、Is there a way of education?		
5/23(日)	J・タッカー先生、ECU 学生案内　広島駅→平和公園・宮島→広島駅		
5/27(木)	ホテル部屋割り　授業研究テーマ案の交流		
6/17(木)	学習指導案の検討		
7/15(木)	学習指導案の検討　渡航のための諸手続き		
7/17(土)	第 6 回学校間交流国際フォーラム		
7/18(日)	2010 体験型海外教育実地研究授業研究ワークショップ 2010 体験型海外教育実地研究発表会		
8/27(金)	学習指導案の検討および教材・教具の作成　渡航のための諸手続き		
9/2(木)	渡航準備　直前打ち合わせ 報告書作成および発表会の打ち合わせ		
Sep 11(Sat)	Hiroshima 0745-0925 Narita (NH-3128) Narita 1105-1040 Washington Dulles (NH-2) Washington Dulles 1235-1340 Raleigh (NH-7144) RDU Airport→City Hotel & Bistro Transportation; Dr. John Tucker is arranging vehicles and drivers for us.		City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd、 Greenville、 NC 27834 Tel; 877-271-2616 Greenville
12(Sun)	Transportation; Dr. Sandra Warren will arrange the transportation for us.	Preparation of Lessons 3:45 pm pick-up from hotel to go to Pot Luck Pitt Pickin and meeting	Greenville

		with school representatives	
13(Mon)	City Hotel→Each School Transportation; Dr. Sandra Warren will arrange the transportation for us.	School Visit Elmhurst E.S.(K-5) Observation/Teaching Dinner: Hibachi Grill & Supreme Buffet at 5:30 pm – (3427 S. Memorial Drive) Kobara and Matsumiya will attend the welcome dinner of ECU Education Abroad Fair– pick-up from hotel at 6:15 pm	Greenville
14(Tue)	City Hotel→Each School Transportation; Dr. Sandra Warren will arrange the transportation for us.	Morning: School Visit Observation/Teaching Afternoon: ECU Teacher Resource Center、ECU Bookstore 、Bender-Burkot Store Kobara and Matsumiya will attend the ECU Education Abroad Fair (1:00 pm – 3:00 pm) Dinner at 6:40 pm: McAllister's Deil. (740 Greenville Blvd SE)	Greenville
15(Wed)	City Hotel → St. Peter's Catholic School → Clarion State Capital Transportation; Dr. John Tucker is arranging vehicles and drivers for us.	Morning; School Visit St. Peter's Catholic School. They will be happy to have you visit on Sept. 15. http://www.stpeterscatholicschool.com/	Clarion State Capital 320 Hillsborough St. Raleigh、NC Tel; 919-832-0501 Fax; 919-833-1631
16(Thu)	Transportation; On foot	School Visit	Raleigh

		*9:00 am; Exploris M.S. *11:00; Museum Visit North Carolina Natural Science Museum	
17(Fri)	Hotel → RDU; Taxi Raleigh 1025-1130 Washington Dulles (NH-7145) Airport → Hotel; Taxi	Traveling to Washington DC Study on the American Culture	Washington Plaza 10 Thomas Circle 、N.W. Washington、DC 20005 Tel; 202-842-1300 800-424-1140 Fax; 202-371-9602 Washington DC
18(Sat)	Transportation; Subway	Study on the American Culture at Historical Place	Washington DC
19(Sun) 20(Mon)	Hotel → Airport ; Taxi Washington Dulles 1220-1525 Narita (NH-1) Narita 1750-1925 Hiroshima (NH-3129)		

３　実地研究授業

３．１　単元等名　第２学年　異文化理解「Wish on a ORIZURU」

３．２　事前準備

①　単元設定の理由

本単元では，折り紙の作品の１つである折り鶴を取り上げ，単元を設定した。折り鶴は，日本で一番知られている折り紙の作品の１つであり，それらを束ねてつくった千羽鶴には，様々な願いが込められている。アメリカの学校は９月から始まるので，学級の仲を深めるために，児童１人ひとりが折り鶴をつくり，それらを束ねて千羽鶴をつくるということが有効だと考えた。しかし，単に折り鶴をつくり，千羽鶴にするだけでは「学級の一員としての自分」を児童が感じられない。そのため，各々がつくった折り鶴に名前と理想の学級像を書かせることにした。また，日本の子どもたちとアメリカの子どもたちの学級像について知り，親近感を抱いて欲しいと思ったため,同様にしてつくった千羽鶴を見本及び贈り物として提示することとした。

②準備物とその意図

授業に大きく関わるものとして、以下のものを準備した。

○視覚的に折り鶴の作り方がわかるプリント

アメリカの児童に対して授業を行うということで、視覚的なものを中心に授業を行うべきだと考えた。しかし、つくり方を書いただけのプリントでは、動的な製作過程をイメージすることはできない。また、教師の手本を見ながらやっても、途中でつまずいた場合、その製作過程を繰り返し見ることができない。そのため、アメリカの児童には折り鶴のつくり方を書いただけのプリントでは理解できないだろうと考え、１つ１つの折り方を動的にみるため、かつ繰り返し確認できるようにするために，すべての手順を折り紙で示したプリントを各グループ２枚ずつ計

８枚配布した。また，教師用として模造紙の大きさで同様のものを提示し，見本の大きな折り鶴も用いながら説明を行うことで視覚的に折り鶴のつくり方がわかるようにした。

○大きなサイズの折り紙

アメリカの児童たちは、日本の児童に比べ器用で無いと聞いており、また、折り鶴の羽に名前と理想の学級を書くためなるべく大きな折り紙を用意しようと考えた。サイズは２５ｃｍ×２５ｃｍとした。

○日本の児童が作った千羽鶴

ただ、文化を伝えるだけでなく、少しでも、日本の児童たちのことを意識し、また、千羽鶴のイメージを抱いて欲しかったため用意した。日本の児童の折り鶴は計２８羽で、千羽ではなかったため、加えて千羽鶴の写真も用意した。

３．３　学習指導案

Activity	Instruction of teacher	Materials
１．Know about orizuru.	１．Tell the culture of origami and the meaning of one thousand paper cranes. And tell about make a orizuru, write about what the ideal class is.	・Orizuru of sample
２．Look at sample of one thousand paper cranes.	２．Show one thousand paper cranes that Japanese children made , give this lesson's pros-pect.	・One thousand paper cranes that Japanese children made
３．Make orizuru.	３．The origami and the handout are distributed, and explain how to fold origami by using a big paper .	・Origami of the same number as number of people ・Origami for teacher ・Written a handout how to make origami of the same number as number of people
４．Write their names and wishes on what kind of class they want to make.	４．Tell students to write their names and their wishes on what kind of class they want to have on the wings of orizuru.	
５．Tell classmates the impres-sions of today's lesson.	５．Wrap up the lesson by telling them that the teacher is also wishing their ideal class will come ture. Give them One thousand	

	paper cranes that Japanese children made.	

３．４　授業の実際

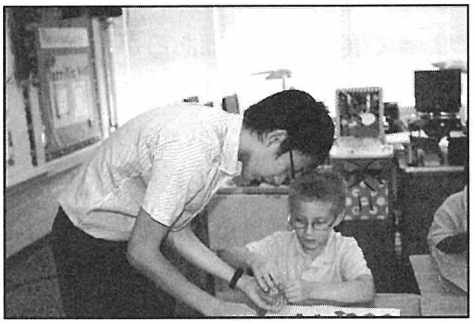
アメリカに行く前の事前相談では，第４学年以上と希望をしていたが，授業前日に第２学年に対して授業を行うことがわかった。授業時間は１時間ほどあったものの，指導案通りには全く進まず，折り鶴をつくるだけで授業を終えてしまった。

（１）導入

指導案では，本時の見通しを持たせるために，本時で行うこと全てを伝えるようにしていたが，児童の実態を考えると折り鶴をつくるだけでも時間が足りないと予想したので，折り鶴をつくることと千羽鶴に込められた思いを伝えるだけにした。その際，折り鶴と千羽鶴の見本を用意し，児童が理解しやすいようにした。千羽鶴に込められた思いを説明する際には，佐々木禎子さんのエピソードをもとにした。このエピソードについて，児童は知っている様子だった。

（２）折り鶴の製作

大きな折り紙と先述したプリントを渡し，ホワイトボードで教師用のプリントをもとにつくり方を説明した。英語と折り紙の動きから，つくり方が理解できるようにしたが，理解できている児童はかなり少なかった。Elmhurst 小学校で教育実習中の大学生がおり，その大学生が児童に分かりやすいように伝えてくれていたので，実際には私が説明したことを，その大学生の方が理解し，児童に説明するという流れになっていた。



【写真１　製作過程の様子】

担任の先生，実習中の大学生，私の三人で机間指導を行っていたが，それでも１つの制作過程で５分ほどかかっていた。

（３）まとめ

授業前の予想通り，製作だけで授業時間が終わってしまった。しかし，児童は完成した折り鶴を友達と見せ合ったり，鶴のように羽をはばたかせてみたりして，大変喜んでいた。最後にまとめの言葉として，日本の文化である折り紙にこれからも親しんでほしいということと，みんなが好きな学級にしてほしいということを伝えて，授業を終えた。そしてプレゼントとして日本の児童がつくった千羽鶴と他の折り紙の作品のつくり方についてまとめた本をあげるととても喜んでくれていた。

３．５　考察

授業前の予想通り，折り鶴をつくるのは大変難しいことであり，指導案通りには進まなかった。日本の児童でも第２学年で折り鶴をつくるのは難しく，ほとんどの児童が折り紙をしたことがない，アメリカの児童にとってはますます難易度の高いものとなった。折り鶴をつくり，学級で１つの千羽鶴をつくることを通して，理想の学級について考えるのが最終的な目標であったが，第４学年の児童に対して行っても，目標は達成できなかったように思う。だが，アメリカの文化を知り，人々と交流していく中で，平和への意識が異なっていることがわかり，目標は達成できなかったが，平和の意識という繊細なことに触れるよりよかったのではないかと

思う。また，視覚的な情報があれば，英語が通じない場合があっても，ある程度は理解できるだろうと考えていたが，うまくいかず製作に時間がかかった。これは，アメリカの児童にとって紙を「折る」という経験が少ないため正確に折れないこと，動的な図形の変化を捉えることが発達段階として難しかったこと，そしてそのような経験が少ないということが理由に挙げられるのではないか。実際，つくり方を正確に理解することは担任の先生も難しい様子で，しばしば間違っていた。折り紙は，アメリカの児童にとってとても難しい教材だと言える。

４　体験型教育実地研究における自己変容

４．１　教育観の変容

アメリカの学校ではものの考え方や教科の目標など様々なことを可視化していた。教室の黒板や壁には，ものの考え方の手段や手順，望ましい行動や教科で身につけるべき力などが掲示されていた。日本では，それらを可視化することは少ないが，子どもにとっては，きちんと書かれていた方が，行動規準が明確になり，生活しやすいのではないか。しかし，それが子どもの考え方や行動を左右してしまうのは怖いとも感じる。

また，児童を褒める際に，飴やドル紙幣を印刷したものを渡していた。日本では，言葉かけによって褒めることはあるが，何か物によって褒めるのは見たことがなかった。アメリカのそうした実態については知っていたが，実際に見てみて日本との違いを感じた。

４．２　自分自身についての変容

アメリカの子どもたちに授業を行うことで，言葉の大切さと言葉以外のコミュニケーションの大切さの両方に気づけた。何か説明する際に，言葉も重要なコミュニケーションの道具であったが，具体物やジェスチャー，表情なども視覚から得られる情報も重要なコミュニケーションの道具であった。アメリカの先生方は，ジェスチャーや表情が豊かであり，英語がすべてわからなくても，何を伝えたいのかを感じることができた。

４．３　グローバルマインドに関する変容

私は，これまでアメリカの文化に対して偏見をもっていたように思う。アメリカの人々に対して，これまでいい印象を持っていなかったが，今回の体験の中で，多くの人々の温かさに触れることができた。アメリカの人々の多くは，日本人に比べ，誰に対しても壁をつくらず，接してくれたように思う。私も国際人として，壁をつくらず相手に温かく接することができるようになりたいと思った。

また，コミュニケーションをとろうとする態度が相手を理解する上で重要だと思った。お互いが相手を理解しようをする態度が，受容的な雰囲気をつくり，コミュニケーションを助け，他者理解を促すのだと感じた。アメリカの人々のこのような姿勢を大事にしたいと思った。

５　おわりに

今回の体験で学べたことはあまりにも多く，ここに書き記すことはできなかった。しかし，今回の体験を通して，自己の価値観，教育観，人間観は確実に変容した。これは，この体験でしか得られなかったことであり，非常に素晴らしい体験ができたことをうれしく思う。

最後に，このような機会を与え，計画・実施してくださったＧＰＳＣの関係者の先生方および，ノースカロライナ州で私たちを受け入れて下さった関係者の方々に，心より感謝申し上げるとともに，今後のさらなる発展をお祈りいたします。